



津屋崎庁舎をなくすな！

均衡ある福津市の発展こそ図るべきです

津屋崎庁舎として利用しながら機能の充実を！庁舎は活性化の源です

両町民の利便性のため「分庁方式」が合併の条件の一つでありました。

ところが合併直後の市長選挙後、舌の根の渴かぬ内に庁舎の一本化（統合）をする旨、前市長は表明し検討委員会の設置を命じた。新市長の小山氏も福間庁舎へ統合を前提に「公共施設有効活用基本構想」を策定し、今年の9月までに方針をだすと明言しました。

公共施設の適正配置で均衡ある発展こそ必要です

市民生活に急激な変化を及ぼさないよう、地域の特性やバランス、さらに財政事情など考慮し分庁方式としたものです。合併4年を経過し、駅周辺・駅東土地区画整理事業に見られるように開発優先の大型投資がおこなわれ旧両町の格差が拡大し、合併の意味さえ問われている状況です。

その上、津屋崎庁舎を廃止し福間庁舎に一本化することになれば、旧津屋崎町は市民サービスまでも差別化されるものとなります。せめて公共施設の適正配置で均衡ある発展を目指すべきです。

庁舎一本化(福間へ統合)は旧津屋崎町地域の過疎化、住民サービスの切り捨てに

合併後、西鉄電車がなくなり、福間中心に行政運営や開発などがすすめられ、旧津屋崎町地域は取り残されているのではないかと感じている人は少なくありません。庁舎がなくなれば現在いる約150人の職員もいなくなり地域の経済や活性化などに大打撃を受けます。均衡ある発展どころか過疎化がすすむものではないでしょうか。

市長・推進議員の庁舎一本化の理由 下記の3点にしばられます

①分庁方式は経費のムダ使いである

庁舎が2カ所で年間8000万円の維持費がかかり1カ所にすれば約、半分近くに維持費の軽減ができる。

②用件などが、一つの庁舎で済まないことがあり、市民のとまどいがある

③職員の会議などで移動時間にムダが生じ効率が悪い

一本化反対理由

市民サービスの欠如、財政負担の増加 理論的根拠が乏しい庁舎一本化方針

①津屋崎庁舎をなくし、福間庁舎に統合すれば、現在、津屋崎庁舎約150人の職員が福間庁舎に移動します。当然、福間庁舎の増改築をすることになり、新たに増改築費約10億円程度必要になります。津屋崎庁舎は別途利用しているため、維持費は継続され福間庁舎の増改築分で合わせて維持費は増加します。

現行、年間約8000万円が、約1億円程度の維持費が予測され、逆に財政負担が増えます。

②総合窓口の充実をすれば解決することです（市民の済まなかった用件、とまどいの苦情データはなし）。

③たしかに、職員の会議での移動時間にロスがあるでしょうが（庁舎間の往復で約20分）、一部の幹部職員が中心ですが、「1分1秒」を大切にす精神があれば、一日の時間内で解消する問題です。

※ここで一番肝心なことは、市民（旧津屋崎）の移動時間や不便さ、市民サービスなど一切考えていなく行政（職員サイド）効率化などで庁舎一本化が検討されていると考えられる。

以上3点の反論に見られるように、市執行部の方針は理論的根拠もないものです。